

日 時	令和 7 年 7 月 1 日（火）15:30～17:00
場 所	岐阜市役所 6-1 大会議室
出席者	相談支援事業所 24 名
	障害者支援施設 3 名
	精神科病院 6 名
	当事者団体 1 名
	自立訓練 1 名
	更生保護施設等 2 名
	市役所関係課 2 名
	委託事業所 4 名
	（合計 43 名）

○検討テーマ…地域移行支援（・地域定着支援）について

地域移行支援では、精神科病院や障害者支援施設等から地域で生活するために必要な住居や日中活動の確保、各種手続きや生活に必要な各種の調整などに関する相談に応じ、必要な援助を行います。関係機関の皆様方の立場から移行促進に向けての取組について協議しました。

1. はじめに
趣旨説明

2. 地域移行支援についての現状 ～ それぞれの立場から ～

①「施設入所支援」から：岐阜市立第二恵光・第三恵光 統括所長 日置江 隆志 様

地域移行はなかなか進んでいないのが現状。

利用者本人の意志決定支援が不十分であること、家族との対話や支援体制が弱いこと、地域・行政・関係機関との連携不足または、職員の意識改革やスキルアップの必要性が課題となっている。

地域移行支援で大切なのは、その人らしく安心して暮らせる場所を一緒に探せることだと思う。その場所が地域にあるのか、または、施設の中に地域性を持たせていく形もあるかもしれない。その人にとって幸せな暮らしとは何かを問い続けることが大切なので、現場の中で小さな取り組みを積み重ねて支援していくことが重要だと感じている。

②「精神科病院」から：公益社団法人岐阜病院 地域サービス科 大栗 永瑞 様

社会資源が増えている中、地域で活躍されている支援者の方が情報が得やすい状況にあると思うが、移行先が本人とマッチングしていることが条件になると思う。本人の事をもっと理解いただきながら、地域移行を進めていく作業が大事である。

病院の相談員は、患者さんの退院を目指して支援しているということを理解しつつ、地域移行の最初の顔合わせから話が進んでいくといいのかなと思う。煩雑な事務作業をクリアしてでも魅力のある事業であると、抵抗なく利用が進むのかなと思う。

③「当事者」から：ほっと♡ほっと 会長 丹羽 彰光 様

私のリカバリーストーリー。私は統合失調症と躁うつ病の二つの顔を持つユニークな発明家。

昭和 39 年、東京オリンピックが開かれた年に生まれた。高校の普通科には合格したが、アマチュア無線がやりたくて入った活動に一生懸命になり、勉強の成績は下がっていった。高校 3 年の春に眠れなくなり、同級生と喧嘩をして頭をぶつけ、大学病院にかかり、精神科を紹介された。年末に不眠になり、診断の結果、そのまま入院になった。1 か月で退院し、センター試験を受け、短大に合格した。無事良い成績で卒業し、工作機械メーカーに就職した。忘年会でお酒を飲みすぎて、上司と喧嘩をして会社を辞め、その日のうちに入院した。

家で母親の内職を手伝いながらデイケアに通っていたが、経済的に苦しくなり、障害年金を申請した。母親が 72 歳で亡くなると、眠れなくなり、1 か月半入院した。退院しても母親がいなくなった喪失感から、しばらくごろごろしていることしかできなかった。

それからだんだん元気が出るようになり、デイケアにも行くことができるようになった。その後4年の長期入院となり、その4年目に父が亡くなった。病棟の壁新聞でグループホームのことを知り、看護師にグループホームに行きたいと希望し入った。ホームにはルールが沢山あり、一人暮らしをしたいと思いアパートを探した。

ピア活動はデイケアで元会長に誘われた。ピア活動をするようになってからは、自分を振り返ることができ、調子が悪くなった時に対処する方法がわかってきた。もう3年になるが、私は超短時間雇用で毎週金曜日の午前中に3時間働いている。自分は変わった人生だと思うが、もう1回やってみると聞かれたら案外いいのかもしれない。

④「指定一般相談支援事業所（地域移行支援）」から：

株式会社 山のみえるとこ かりんの木 管理者 安藤 大輔 様

事業としてまだ若く、実績が少ないが、現在一人支援中であり、何ができるのかを模索しながら週に1度お伺いして話をしている。ご本人の希望を聞き、提案できることはないかを事業所内で相談しながら取り組んでいる。

地域移行サービスを使っていただけるきっかけ作りが課題だと思う。地域移行支援は、計画相談支援と連携しながら居住支援で物件を決めていくように、移行支援だけでなく、色々な関連機関に話をしていくところから始まっていくと思う。

まだお二人しか事例はないが、個々に応じて提案していきながら定期的にお伺いし、できるだけご本人の希望に沿って移行していきたいと思っている。

⑤「自立訓練事業所」から：自立訓練（生活訓練）事業所うかい 管理者 塩谷 岳二 様

自立訓練（生活訓練）は、精神科病院に入院されている方がうかいに入所し、訓練を受けてそのまま地域へ出ていくような流れにて、入院と地域の間施設の間の施設だと思っていただけるとわかりやすいと思う。

ご本人から入所したいというケースはほとんどなく、関係者やご家族様からの話が多い。精神科病院の方から入所に繋がるケースもあれば、家にいるが一人暮らしがしたいから施設で訓練を受けて力を身に着けるといったパターンもある。家にいても、家族とうまくいかないから一人暮らしをしたいというニーズもある。

本人との定期的な面会、希望について家族と話し合いを繰り返しながら本人の希望に添える形で退所していただく支援をしている。2年間の中で日常生活がなかなかできない方は、一人暮らしに必要な福祉サービスや訪問看護などを紹介し、地域に繋げている。

⑥「地域生活定着支援センター」から：岐阜県地域生活定着支援センター 鎧塚 理恵 様

基本的には、保護観察所から依頼を受け、支援が始まる。本人が支援を希望することが原則であり、周囲から支援が必要だと言われている人であっても、本人が希望しないと支援はできない。対象者は矯正施設でピックアップされ、保護観察所にて認定される。その対象者が矯正施設を出所するまで、何回も面会しながら様々な調整を行う。出所後は、生活が安定するよう手厚く支援しながら、徐々に地域による支援にシフトしており、司法と福祉をつなげていく役割を当センターが担っている。地域に出るには、住むところを確保する必要があるが、犯罪歴のある方は拒否されやすい。それでも、受けていただけるグループホーム等を調整しながら、その他の福祉サービスや受診先などを整えている。

3. 質疑応答、まとめ

今回の会議は現状把握や課題の整理というところを主眼とし、まずは現状の理解ということで地域移行に関わる様々な方から報告いただいた。

その報告から、地域移行そのものの理解や、関わる方の思い、また何よりもご本人中心の支援をするという意識が大切だという話もあり、相談支援専門員を中心に自分らしい生活を支える一つの支援として、役立ていけるとよい。また、岐阜市として、今後どのように推進していくのか、アンケートの結果も含めて次の動きに繋げていきたい。

4. 当日の様子



5. 当日アンケートの結果

①本日のテーマ別分科会について【1】

良かった	… 52 %	概ね良かった	… 32 %
普通	… 12 %	あまり良くなかった	… 4 %
良くなかった	… 0 %		

②本日のテーマ別分科会について【2】（複数選択可）

次の地域移行の現状（状況）について理解が深められた

・「施設入所支援」	… 60 %	・「精神科病院」	… 76 %
・「当事者」	… 80 %	・「指定一般相談支援事業（地域移行支援）」	… 68 %
・「自立訓練事業」	… 72 %	・「地域生活定着支援センター」	… 76 %

③本会に参加されて「地域移行」への考えの変化や新たな気づきがあれば教えてください。

- ・地域移行(特に精神科病院からの退院)を取り組んでいくのであれば、もっと行政、医療機関、中心となる一般相談支援事業所で連携を図っていかないと難しいと思う。
- ・当院ではまだ地域移行が困難な案件が多くある。資源を最大限活用できるよう、今後も連携や情報収集に努めたいと思った。
- ・「施設入所支援」という同じ視点での意見や今後の課題をお聞きすることができ、大変参考になった。まずは、事業所、法人内での地域移行への理解を十分に浸透させていく事が重要だと再認識した。
- ・なかなか進んでいないのが現状であるが、本人の意思確認を怠らず、本人に合った生活の場を検討したいと思った。
- ・施設から日中支援型グループホームへの入所を希望され支援したことがあるが、指定一般相談支援事業所でないと地域移行支援ができないのは残念に思う。本人の希望で移したが、何ヶ月も時間を要した。もっと多くの事業所でおこなえるとよいと思う。
- ・現状、地域移行は病院から退院する時、本人が地域で生活したいと思わないと話が進まず、ここが大きなポイントになると思った。
- ・手続き自体が煩雑との事 そこにハードルの高さを感じた。
- ・地域移行を意識した支援や関わりは必要であると思うが、入所移行、入院移行、グループホーム移行を安易に検討せず地域での暮らしをいかに継続できるよう支援、プランニングしていくことも必要だと思った。
- ・岐阜でも地道な取り組みを行ってみえている方々がみえることを直接知る機会となり頼もしく思った。
- ・日頃から色々な機関との関係を築き、新たな社会資源を知ったり、相談しあえたりすることで対象者が地域移行できる可能性が広がると感じた。

- ・国が地域移行を推進している一方で、現場では、地域移行に向けて積極的な取り組みができていないわけではない現状を改めて感じた。まずはこういう制度があることを患者さん自身に知っていただく機会を作っていく必要があると感じた。病院同士の連携や地域移行促進に向けての取り組み等があるとよいと思う。
- ・地域移行支援を上手に利用するには支援制度の中で具体的にどこまで動くのかを支援者間で把握しておく必要と、病院や施設が地域移行支援事業所とつながっておく必要があると感じた。

④支援対象者の中で地域移行が可能と思われるケースはありますか？（複数選択可）

- | | |
|----------|-----------|
| ある | … 12. 5 % |
| 条件が整えば可能 | … 41. 7 % |
| ない | … 45. 8 % |

⑤上記で「ある」と回答いただいた方に伺います。どのようなケースですか。

- ・入所施設で生活しているケース。
- ・現在グループホーム閉鎖に伴い、別のグループホームに行くかアパートで一人暮らしかを検討中の方に対しアパートを勧めている。
- ・岐阜圏域の精神病院さまからの退院相談。

⑥上記で「条件が整えば可能」と回答いただいた方に伺います。どのような条件が整えば可能でしょうか。

- ・精神疾患に特化した施設や、摂食障害に理解ある施設など。
- ・ご本人の意思、ご家族のご理解、地域移行先の支援環境（介助面や理解者など）が整うこと。また、施設内関係者などご本人を取り巻く職員の意識や地域移行への理解の浸透が必要。
- ・病院からの地域移行。
- ・本人、家族の意思（無理だと思っている）を変えること 在宅での医療、福祉サービスの充実
- ・分かりやすく、積極的な方が支援をされるならば。
- ・一般就労が安定してきている利用者様でグループホームに長年入居されている方。

⑦上記で「ない」と回答いただいた方に伺います。その理由は何でしょうか。

- ・依頼がない、対象者がいない。
- ・在宅の利用者様の支援が多いため。
- ・ご家庭で住んでいる方は、グループホームなどを希望されない。
- ・特定相談では、精神科の長期入院ケースがほとんどない。

⑧その他本日のテーマ別分科会、今後の地域課題の取り扱いなどについてご意見があればお聞かせ下さい。

- ・地域移行と言葉だけ先行しているが、実際、過去の退院促進事業の時に関わったことから考えると、設定単価以上の労力がかかる。また、ある程度行政も関わっていかないと、にも包括もだが中々岐阜市として進展していかないと思う。
- ・摂食障害の方の地域移行の方法などが知りたい。
- ・障害者支援施設の関係者として、ご本人の可能性をより観察、導き出せるような姿勢、施設として地域移行への十分な理解が重要であることを、再認識することができた。また、今回の様な「当事者」や各業種の視点からの意見を聴くことのできる形式は、とても勉強になった。
- ・当事者のお話はやはり良いと思った。当事者間で話ができるような場ができるとよいと思った。
- ・他事業所との連携が大事なのは分かるが、どのように他事業所と出会っていくのか知りたいと思っている。居住支援も絡めた情報共有ができるとうれしい。
- ・矯正施設から直接、相談支援事業所やグループホームなどに受け入れ等の依頼が入る場合がある。その際の不安や疑問、定着に対してどのような連携を希望するかなど、お伺いできると有難い。
- ・精神科病院のケースワーカーと地域の支援者（特に相談支援専門員）との意見交流会等をしたと思った。今回、アンケートを通してあがってきた内容を、地域移行を推進していくにあたり地域課題として、さらに深めていく場（例えばワーキングチーム等）があると良いと思った。